

## Q&amp;A(オンラインおよび会場)

## オンライン

#	質問	回答
1	4年から、3年半のプログラムへ短くしたとのお話がありましたが、さらに短くする予定はありますか？例えば、修士の標準的な期間である2年間に合わせる等。	有難うございます。様々な学生のニーズがあることを理解します。現時点ではJICA海外協力隊の通常の制度を使っていますので、これ以上に短くする可能性は低いです。一方で、通常の制度ではなくインターンや短期派遣ということも検討を始めています。ただし時間の長短のみならず、教育としての質保証、参加した学生の満足感なども考慮に入れる必要があります、すぐにこれらが実現することはありません。
2	ザンビア特別教育プログラムにとっても興味を持ちました。小林恭子先生のお話の中にあつた、短期間での参加方法（例えば、協力隊経験者は現地で活動を1年に短縮する等）が可能になると、社会人経験、協力隊経験者が、より参加しやすくなり、有難いと感じます。今後、そのような可能性はありますか。また、高坂先生と小林先生に質問です。協力隊参加後にザンビアに参加されたとのことですが、協力隊後に参加した理由を教えてくださいませんか？	コメント、ご質問ありがとうございます。短期の参加方法については、ご提案いただいたばかりです、今後協議・検討していきたいと思えます。高坂先生・小林先生の参加理由についてはホームページの経験者の声、下記のリンクにあります。小林先生は旧姓山田恭子様となります。 <a href="https://intlscim.hiroshima-u.ac.jp/voice1.html">https://intlscim.hiroshima-u.ac.jp/voice1.html</a>
3	広島大学の20年間の知見の共有に大変感謝いたします。興味がある大学が希望すれば、JICAは同様のモデルで、（例えば他の分野、保健など）他国でも展開できるのでしょうか？また、広島大学との連携の可能性はあるのでしょうか？関心があれば、どのようなアプローチをすればよいのでしょうか？	(JICA) ご質問ありがとうございます。JICA海外協力隊の大学連携の事例や、協力隊経験者の受験枠設置大学についてはJICA海外協力隊のHP、企業・自治体・学校関係者向けのページで紹介があります。 <a href="https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/careerinfo/pdf/daigaku_yugu.pdf">https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/careerinfo/pdf/daigaku_yugu.pdf</a> 新たにJICA海外協力隊と連携を考える大学につきましては、下記JICA担当部署までお問合せ下さい。 JICA青年海外協力隊事務局参加促進課 jvtpp_gs@jica.go.jp 広島大学へのご相談はプログラム連絡先へお願いします。intlscim@hiroshima-u.ac.jp
4	広島大学の国際協力研究科の特徴として比較的協力隊出身者の数が多かったこと、初期のザンビア参加者にも協力隊経験者がいる（OB,OGで修士等を取りたいという人たちも吸引した）など、研究だけに偏らず実践とのバランスを取りつつ進められたこともよかったのではないかと思います。	ご指摘、コメントを頂き有難うございます。おそらく、ご指摘の点は、広島大学の実践と研究の融合という志向性にあると考えます。戦前にまでさかのぼる師範学校、戦後多数の教育分野の指導者を輩出した教育学研究科、それらの実績をもとに国際協力研究科を1994年に設立した際に、教育開発分野は柱の一つになりました。その後も、ザンビア特別教育プログラムのみならず、バングラデシュJICAプロジェクト（受託事業）など実践と研究を融合する試みを続けてきました。
5	ザンビアの初期に尽力された栄永氏、その後をさせた馬場教授がいずれも協力隊OVであるのは象徴的に思います。	有難うございます。評価いただいたことを素直に喜びたいと存じます。ただし、それは一方で限界を生む可能性がないのか？を常に忘れず、次の段階に続けていきたいと存じます。
6	研究はしばしば立ち止まること、なぜと問うことを求める一方、実践は動きながら物事を進めるところがあり、異国で英語で授業を行うザンビア生にとっては、一般の隊員よりも授業の実施等に苦勞し、うまく授業をすることを短期的な成果とみれば、うまくいかなかった人もいたのではないかと思います。なのでザンビアの成果を派遣中の専門性、授業のうまさ、生徒の学力向上に見るのではなく、派遣後のキャリアや動機づけの高さなどに見ていく視点が大事だと思います、ご盛會おめでとうございます。	ご多用の中参加いただき、また貴重な指摘頂き有難うございます。短期的な成果、中・長期的な成果ともに重要と考えます。参加者はJICA海外協力隊員として派遣されるので、短期的な成果はもちろん重要なことです。他方で参加時の経験や能力は多様ですので、同じことを求められませんし、本人が精いっぱい努力したうえでなお不完全な部分もあると考えます。しかし大学院での教育として捉えた時に、研究を通して実践について深く考える必要が出てきます。この実践について深く考える経験は、短期的には修士論文に結実しますが、それ以上のものがあると考えますし、経験的にも修士生がその後大きく成長していることを実感します。今回の第一部では終了後の成長の具体像を示すために、中・長期的な視点から検討しました。
7	本日の話をお聞きして、ザンビアにとどまらず、JOCV現職参加教員、短期では教師海外研修参加者などの経験の言語化、組織化、日本の教育課題への貢献方法の検討など、JICAが各県の教育関係者と一緒にやるべきことが多くあると感じました。	有難うございます。JICAとの連携を今後さらに深めていきたいと存じます。言語化、組織化、貢献方法など、改めて考えたいと思えます。
8	JICAは、今後、このような大学院とJOCVのプログラムを他国に積極的に広げる予定ですか？	(JICA)大学院に限定すると数は多くないものの、大学や民間企業、自治体等パートナー機関との連携派遣を強化してきました。2000年代には例年一桁だった連携隊員ですが、2010年代後半は年間200名近くまで広がっていました。連携を強化してきた理由はシンポジウムでお伝えしたとおり2点あり、1つは少子高齢化/人口減少で応募者が減少する中で、専門性の高い方を派遣するためにも連携パートナーを広げることは重要と認識しています。もう1つの理由として、大学との連携によりグローバル人材育成支援することが、グローバル化する社会にとって重要な要素と考えています。
9	日本国内だけでなく日本国外も、恐らくJICAプロジェクトと同様、外国版青年海外協力隊のような人材派遣事業を行っていると思えます。JICAが他国に広げるのもありだと思いますが、既に海外でされているそういった事業とのタイアップ（もちろん大学との連携も含めて）もできると、すなわちグローバルな国際協力プロジェクトに繋がると感じました。様々な事情があるかと思いますが、理想的な青写真として出させて頂きました。本日は非常に示唆的な知見を頂戴いただき、誠に有難うございました。そして、ザンビア20周年、誠に有難うございます。	有難うございます。例えば、米国平和部隊（USPEACE Corp）、英国（VSO）、韓国版協力隊（KOICA）などがあると思えます。これら全体を含めて協力隊員などと呼びます。ザンビア特別教育プログラムを立ち上げる時の調査によれば、英米の協力隊員などで大学に所属する例はあっても、大学のプログラムとして行っている例はなかったようです。今回のご提案を踏まえて、協力隊員などをそのまま比較するのか、大学との連携プログラムとして比較するのかによって異なってきますが、新しいアイデアとして検討したいと存じます。

## 会場

10	これだけの活動を広大でこのプログラムでできてきていて、他の大学でこういうプログラムがなかなか生まれてきていない理由について	成果発表は3回目ですが、過去2回に他大学の先生方にコメントータとしてご参加いただきました。頂戴したコメントの主旨は、「教育プログラムをこのような形で動かすこと、定期的に現地視察に行くこと、メールゼミを行うことなど、大変ですね」ということでした。この言葉の背景にあることを読み解くと、目前の学生たちも多くいる中で、ザンビアに派遣中の学生に対して、どのように管理運営をするのが課題であることを指していると考えます。
11	質問が2点あります。ザンビア特別教育プログラムでは実践と研究の往還に20年間取り組まれてきていますが、他の大学で、なかなかこのような取組みが生まれてきていないのはなぜなのでしょう。実践と研究の往還が容易ではない中で、広島大学でこれだけの取組みをされてきている中、JICAとして何ができるのでしょうか。またザンビア特別教育プログラムにおける活動をJICAとしてどのように活かされるのでしょうか。	(JICA) ご質問の一点目については、ザンビア特別教育プログラム設立の背景として、国際協力人材育成ニーズの高まりがあったかと思えます。近年ではグローバル人材育成の重要性が高まる中、日本国内の大学の関心・ニーズが徐々に高まってきているところかと思えます。二点目については、ザンビア特別教育プログラムの修士生の皆様は日本・海外で活かせる様々な知見・経験をお持ちです。修士生の方々等と今後もつながりながら、今後どのような活動を展開できるか考えてまいりたいと思えます。

\*回答欄に（JICA）とあるものはJICAに回答いただいたものです。特に記載がない場合は主催者（広島大学プログラム担当）よりの回答となります。